

# 札幌ゆりんピック開催 札幌ファクトリーにて

生産量日本一  
「ゆり根」  
真狩村をPR



小樽開建設置のパネル(一部)



会場では「わが村は美しくー北海道」運動や、後志管内の児童がデザインした「わが村は美しくー北海道」運動の題字、国営による農地の基盤整備事業を紹介したパネルを設置して、多くの来場者に当部のPRもおこないました。

同道の駅では、一昨年から、消費者に村で生産した野菜を食べ比べてもらい、生産者毎の美味しさを競う野菜選手権を開催していましたが、生産量日本一を誇る『ゆり根』では今回が初めてでした。

道内におけるゆり根の認知度が低い中、当初は札幌市内での開催に集客や反応に対して不安がありました。当日は、まだ準備中の時間帯から、どしどし来場者が訪れるなど、イベントに対する消費者の期待度の大きさを実感しました。



1月20日(日)サッポロファクトリーアトリウム広場において、真狩村道の駅管理組合主催(小樽開発建設部後援)で「第1回札幌ゆりんピック」と題し、真狩村の特産物であるゆり根の美味しさ比べ選手権を通じ『ゆり根』と村のPRイベントを開催しました。

主催者である同道の駅管理組合は、北海道の農山漁村の地域活動を応援する北海道開発局主催「わが村は美しくー北海道」運動に参加しており、また、真狩村で実施している国による農地の基盤整備事業の畑ではゆり根が作付けされています。



選手権の投票も、受付に約100人もの行列ができるほど大盛況で、ファミリーやカップル、野菜ソムリエの方など、幅広い客層が皆、真剣にゆり根の食べ比べを体験し、「ゆり根ってこんなに甘い?」や「初めて食べたけど美味しい」など、味に対する高い評価の声が多く聞かれました。

ステージ上では、当部の職員が進行役になり、ゆり根の生産者4名と、パネルを使いながら「ゆり根とはどんな野菜なのか」や「栽培における苦労話」など、消費者が普段聞くことのできない農業生産現場の生の声を届けるとともに、ゆり根の簡単な調理法などを紹介し、ゆり根の消費拡大に向けたPRを行いました。また、生産者の思いが野菜選手権の開催に至った経緯を伝えると、多くの来場者は頷いていました。